

令和6年12月

発行

.....

# 日赤にいがたNEWS

N I S S E K I N I I G A T A

第 8 号



CONTENTS

令和6年能登半島地震災害復興支援活動～被災地に思いを馳せる～  
赤十字こども・若者みらい会議視察研修 / 県内中学校での防災教育



皆さまのご寄付が唯一の活動財源です。

日本赤十字社は公平で中立な活動が求められるため、国や県から補助を受けることなく皆さまからのご寄付のみで活動を展開しております。本紙に掲載の活動をはじめとする赤十字活動を今後も行えるよう皆さまからの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

活動資金の受付窓口は二次元コードからご覧ください >>>>



 **日本赤十字社** 新潟県支部  
Japanese Red Cross Society

〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町1-3-12  
**TEL 025-231-3121 FAX 025-231-3122**  
E-mail [humanity@niigata.jrc.or.jp](mailto:humanity@niigata.jrc.or.jp) <https://www.jrc.or.jp/chapter/niigata/>



# 令和6年能登半島地震災害復興支援活動

## ～被災地に思いを馳せる～

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震災害は本県にも甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

日本赤十字社新潟県支部は発生直後から被災地に医療チームを派遣し、災害救護活動を行ってまいりました。ご協力いただいている皆さまの支えもあり、新潟県内でも赤十字防災ボランティアの派遣や救援物資の配布、義援金募集活動を実施することができました。

今回は復興支援活動の一部として、パートナーシップ協定を締結しているオイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ様(以下、アルビBC)と行った復興支援活動を紹介します。



### 子どもたちを招待! 能登半島地震復興支援ゲーム

7月30日、アルビBC VS 読売ジャイアンツの試合を「復興支援ゲーム」と位置づけ、日本赤十字社石川県支部の協力も得ながら開催しました。被災地である能登地域・新潟市西区の子どもたちをHARD OFF ECOスタジアム新潟に招待し、試合観戦だけでなく球場の探検や選手との交流、義援金募集などを実施、さらには始球式への参加もしました。

翌日は球場を貸し切って子どもたちの交流試合! 地震のためにグラウンドが使えなかった子どもたちはのびのびと野球を楽しんでいました。



### 被災地での活動! アルビBCの選手たちと被災地で野球交流会を開催

10月20日、アルビBCの選手たちと被災地を訪れ、日本赤十字社石川県支部の協力のもと、地元野球チームの子どもたちを対象に野球交流会を開催しました。7月の事業に参加していた子どもたちもあり、「赤十字さんがまた来てくれた!」「選手に野球を教えてもらえた!」という元気な声が聞こえてきました。地震後の大雨災害に負けず、子どもたちが元気に活動している姿に、復興支援への思いが一層強くなりました。

これからも赤十字は被災地への支援を継続してまいります。



# 赤十字こども・若者みらい会議 視察研修 ～災害時にとるべき行動を学ぶ～

赤十字こども・若者みらい会議(以下、みらい会議)は、「子どもたちの未来をもっと明るくすること」等を目的に令和4年度から高校生・大学生のメンバーが活動しています。

活動テーマは、「防災・減災」。

9月14日～16日に宮城県と岩手県を訪問し、東日本大震災の被害や、災害から命を守る方法について学びました。

この体験で学んだことを次世代の子どもたちに継承するため共に活動を継続してまいります。



旧大川小学校の見学(石巻市)



## 参加者からの感想



震災の時のことは詳しく覚えていなくて、大きい地震、被害が大きかったという印象だけでしたが、実際に被災地に来て、被害を自分で見たことにより、地震の怖さ、津波の怖さを改めて知りました。

これくらいの地震なら津波は来ないと過信せず、津波は来るものだとことを覚えておきたいです。

新潟青陵高等学校 1年 和平 真優乃 さん



今回の被災地研修で特に印象に残ったのは、現地の方々の強い復興への意志と、震災の恐ろしさです。大川小学校では、多くの児童が犠牲になった悲劇に触れ、命の大切さや防災意識の重要性、いざというときに自分や周りの命を守る判断力の必要性を改めて感じました。

新潟明訓高等学校 2年 青柳 愛 さん



避難経路の追体験(釜石市)



震災後に建設された水門防潮堤の見学(釜石市)

## 県内中学校での防災教育



「卒業前に様々な知識を身に付けてほしい」という先生の思いから、新潟市立藤見中学校では、3年生の総合学習の時間に、防災教育と救急法講習を行いました。

防災教育では、災害からいのちを守る方法や、家族・地域の協力の大切さを学びました。防災グッズ作りとして新聞紙スリッパを作成し、いざというときの対応を学んだり、避難所で様々な状況を抱えて避難される方や、刻々と変化する状況をどのように対応するかグループで考えたりしました。

救急法講習では、胸骨圧迫とAEDを体験しました。応急手当として、止血の方法や喉にものが詰まったときの対処法など、人を救うために必要な知識と技術を学びました。

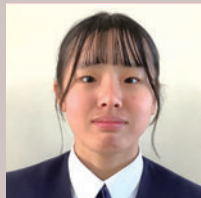
### 防災教育(避難所体験)



僕は、今日の体験活動を通じて、いざというときには、その場に応じた対応力と知識が大事だと感じました。避難所体験では、避難所には様々な人がおり、その人の状況に応じて、柔軟な対応が必要でした。今回は2度同じ人が来たこともあり、2回目は手際よく対応できました。皆さんの的確なアドバイスにより避難所はどのように運営すればよいかを知ることができました。

3年4組 伊原 勇馬 さん

### AED講習



とても勉強になりました。ありがとうございました。AEDのお話では、私達中学生も急に倒れるかもしれないと知って怖いと感じました。私達はちょうど今長距離の授業を行っていて、とても印象に残りました。でも本日もちゃんと教えていただいたので、応急処置を自分でできると思います。いつどんな不幸があるかわからないから、私を含めたみんなが知っておく必要があることを学びました。

3年3組 嵯峨山 花 さん



自治町内会等でも防災について学んでみませんか。詳しくはこちら



